

広告の紙の上に新しいおむつ を敷き、子どもを寝かせる マスク・手袋をつけ、市販の 使い捨ておしり拭きまたは, お湯でしぼった使い捨て布で







下痢で汚染してしまった布おむつは 思い切って捨てるのが理想ですが. どうしてもまた使いたいときに…

図 2-1 下痢したときのおむつ交換

〔⑤ 歯みがき〕

歯みがき中に歩いたり走ったりして転倒する事故が増えています。歯ブ ラシでのけがの救急搬送は 1~2 歳児が 70% を占めています。歯みが き中は立ち歩かないように注意します。また、感染予防のため歯ブラシが 触れ合わない状態での保管が必要です。歯ブラシは使わず、食後のブクブ クうがいを奨励しているところもあります.

遊びは子どもの発達をうながす大事な活動です。遊びのなかで育ち、学 び、社会性を身につけます、遊びによって子どもは自己実現を繰り返し、 成長していきます、やりたいことに向かって、自分で考え、からだと頭を 使って集中して遊ぶことができるように、子どもの心身の発達に合った保 育計画を立て、環境を整えて、支援していきましょう.

保育保健からみた期待する子ども像

- 心地よくいきいきと幸せを感じる子ども
- 生活リズムが整っている子ども
- 自分から遊べる子ども
- 自分のからだのことがわかる子ども、伝えられる子ども
- 自分と友だちのからだを守れる子ども

(全国保育園保健師看護師連絡会)

⑦ 抱っこ・おんぶのしかた

抱っことおんぶは、乳児の移動手段です、抱っこやおんぶをするときに おとなの腕から子どもが落ちて骨折することがあります。職員がお互い介 助します(図 2-2)、ひとりのときは、座った姿勢でしっかりと抱っこし て動き出します. ひざの屈伸を使うと腰痛予防になります. おんぶは. ひ もで固定してから立ち上がりましょう.

緊急時には0歳の子ども3人をひとりで避難させることがあります. 1人を背中におんぶして、左右の腕に1人ずつ、3人の子どもを抱えて の避難です、避難訓練時には、ほかの職員が応援に来てくれますが、実際 には3人を抱えて階段を降りなければならないことがあるかもしれませ ん. 抱っこは足もとが見えないので、一歩一歩安全を確かめて進みます。 階段は一段ずつ腰かけながら進むこともあります。おとなの責任が問われ る行動です. しっかりと安全を確保します.



安全のために、子どもを背 負うとき、下ろすときは必 ず介助してもらいましょう



背中に子どもがいることを つねに意識して動作に気を つけましょう



子どもの位置は、あまり下 がらないように



ときどき鏡を見て、子ども の様子を確認しましょう

図 2-2 おんぶをするときの注意